

40周年の節目を迎えた

南相馬市との交流野球大会

14日、区立下高井戸運動場（下高井戸3-26-1）では、杉並区と福島県南相馬市の少年野球大会が行われました。この交流大会は、今年で40回目となるもので、この野球交流の積み重ねが、自治体間の「災害時相互援助協定」の締結のきっかけともなりました。

昭和49年、杉並区立新泉小学校（和泉1丁目）の野球チームが福島県原町市（現・南相馬市）に遠征し、石神第一小学校と練習試合を行って以来、毎年お盆のこの時期に両区市の少年野球の親善試合を行ってきました。参加校も年々増え、野球を通じた交流は、今年で40周年の節目となりました。

この市民レベルの交流の実績が、やがて杉並区と南相馬市の自治体間の交流となり、平成17年には「災害時相互援助協定」が締結されるまでになりました。そして、締結後に発生した東日本大震災では、行政の物的・人的支援ばかりか、区民自らが駅頭での義援金の呼びかけやチャリティーバザーの開催を行うなどで、南相馬市への支援の輪が広がりました。

交流野球は、大震災のあった平成23年の8月にも、野球交流の灯を消してはならないという関係者の思いから、途絶えることなく野球大会は実施されてきました。ただし、それまでのような相互の遠征ではなく、会場を杉並にしての開催となったこと。さらに、大震災前には、南相馬市に8つの野球チームがありましたが、震災後は故郷を離れる児童も多く、3チームのみとなってしまいました。

14日、南相馬市から原町ジュニアメッツと鹿島野球スポーツ少年団の2チーム30名の選手が到着。杉並区からは、スポーツ少年団登録17チームからの選抜チーム「オール杉並」、さらに「ナミスケ」「ナミ」の合計3チームが参加。今日と明日の2日間で、交流試合を行います。また、今年8月30日には、震災後はじめて杉並選抜チームが、南相馬市を訪ね、交流試合が行われることになっています。



午後1時15分からの開会式では、日本女子プロ野球リーグ「レイア」所属の山崎まり選手（杉並区出身）など4名が駆け付け、女子選手で構成された「ナミ」の選手たちとキャッチボールを行うなど大会に花を添えました。そして、杉並区スポーツ少年団オール杉並主将の青木陸（小6）選手の選手宣誓により、試合の火ぶたが切られ、多くの声援が両チームに送られる中、40年の歴史を重ねた伝統の杉並と南相馬の熱い戦いが繰り広げられました。

【報道機関 問い合わせ先】

総務部広報課 TEL：3312-2111